

車の燃費向上、X普及

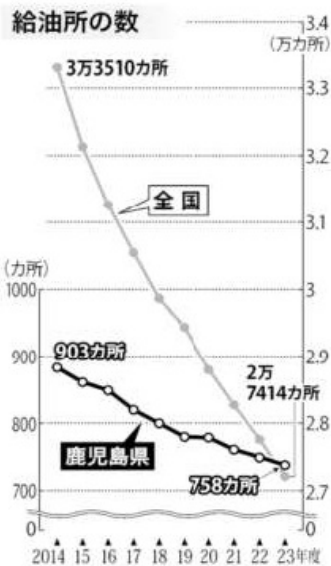
給油所の廃業進む

自動車の燃費向上や電気自動車（EV）の普及により、鹿児島県内でガソリンスタンド（給油所）の廃業が進んでいる。経済産業省の統計を見ると、全国の給油所はここ30年で約半数にまで減った。公共交通機関が少なく自家用車が手放せない地方をはじめ、冬場の灯油配達や災害時のエネルギー確保など、給油所は暮らしと直結している。鹿児島の減少率は全国より緩やかなものの、個人経営の多さから今後、急激に減少する恐れもある。

深掘り鹿児島

4月上旬、鹿児島市春山町の山あいを車で走ると、道路脇の「閉店」の張り紙が目に入った。看板は下ろされているが、自動洗濯機や給油ホースはそのまま残り、一目で給油所だったと分かる。近くの主婦山下りさん（68）は「いつも使っていたが突然閉まった。今は少し離れた系列店に入れるが不便」とこぼす。

理由はそれだけではない。給油所は地下のタンクからガソリンをくみ上げて給油する仕組み。定期的なメンテナンスはもちろん、タンクの設置から40年経過すると、腐食防止のための改修が義務付けられる。一般的な1万坪のタンク5基だと1千万



10年で16%減 改修は重荷、高齢化で拍車

円以上かかることもあり、改修を前に廃業を選ぶ事業者も多いという。県内で大手とされる同社も、ここ5年間で94店舗のうち10店舗を閉めた。担当者は「近隣の給油所に集約する形で、引き続き地域への役割は果たしていく」と力を込めた。

■瀬戸際

資源エネルギー庁によると、24年4月時点の給油所は全国で2万7414カ所。ピークだった1995年3月の6万4211カ所から毎年減り続ける。この10年間で6096カ所（18・2％）の減。鹿児島県でも903カ所から145カ所（16・1％）減った。

同庁は、給油所が3カ所以下の自治体を「給油所過疎地」と定義しており、全国では392市町村区が該当する。鹿児島県では、三島、十島、宇検、大和の離島4村が給油所過疎地に位置付けられる。ただ、自動車1万台当たりの給油所数は7・3カ所、24年3月末と全国1位の多さだ。

とはいえ「安泰というわけではな

い」と話すのは、県石油販売業協会の高田英司専務理事。東京や大阪の都市部と比べ、鹿児島県内では家族や夫婦で経営する小規模給油所が多い。高田専務理事は「地域のため」に力だけで続けているスタンドもある。担い手の高齢化が進み、今後数年間で閉店が相次ぐ可能性もある」と危惧する。

■後継者

「息子に継がせたくない。経済面も体力面も厳しいことは分かっているから」

60年以上、地域から親しまれてきた鹿児島市郊外の給油所。オーナーの男性（72）は父親から引き継ぎ、給油から車の窓拭き、灯油の配達といった「フルサービス」を信条に妻と二人三脚で切り盛りしてきた。

風向きが変わったのは数年前。近所に価格の安いセルフ式給油所ができ、客足は遠のいた。住宅もオール電化が進み、灯油の販売量も減少の一途をたどる。ガソリン代の高騰が続く中、少しでも安い方を選ぶ心情も分かる。男性は自身の代での店じまいを決めている。ただ「灯油の配達まで手がける店は少ない。需要が減ったとはいえ、車がない世帯は困るかもしれない」と葛藤もある。

離島を持つ鹿児島は、全国でもガソリンが高い県に挙げられる。「小規模事業者が食っていくには価格転嫁しかない。給油所は一種の公的役割も担っているのに、民間任せでいいのか」と高田専務理事。行政を巻き込んだ議論の必要性を感じている。

昨夏閉店したガソリンスタンド。給油ホースや洗車施設がそのまま残されていた

4月上旬、鹿児島市春山町

2025年4月20日付7面



南日本新聞社

* 習っていない漢字のよみがなや難しい用字用語の解説

廃業(はい・ぎょう) = 商売などをやめること。 恐(おそ)れ	瀬戸際(せ・と・ぎわ) = うまくいか、失敗するかの分かれ目。
閉店(へい・てん) 突然(とつ・ぜん) 系列(けい・れつ)	過疎地(か・そ・ち) = 人や施設などがまばらで少ない地域。
飛躍的(ひ・やく・てき) = 物事の発展、進み具合が速いこと。	該当(がい・とう) = ある決まりや条件に当てはまること。
腐食(ふ・しょく) = さびたり、くさったりして形がくずれること。	安泰(あん・たい) = 何事もなく、心配がないこと。
一般的(いつぱん・てき) = 広く行き渡っている様子。物事を	後継者(こう・けい・しゃ) = 後をつぐ人。 窓拭(まど・ふ)き
まとめて言う様子。 近隣(きん・りん) = 隣(とな)り近所	郊外(こう・がい) = 都市の周りの、まだ自然が残っている所。
二人三脚(に・にん・さん・きゃく) = 二人が横に並び、内側の足を	需要(じゅ・よう) = 商品を求めること。 葛藤(かつ・とう) = 心の
しばって走る競技。二人で協力して物事に当たること。	中に相反する欲求や考えがあって、その選択に迷う状態。
切(き)り盛(も)り 一途(いつ・と) = 一筋の道。一つの方向。	価格転嫁(か・かく・てん・か) = 原料費や労務費などのコスト
高騰(こう・とう) = 物の値段が急に上がること。	上昇分を製品やサービスの価格に上乗せすること。

【問1】 見出しの空欄Xに当てはまる言葉を次のア～ウから選びましょう。 (ウ)

ア AD (自動運転) 進化 イ ETC (電子料金収受システム) 増加 ウ EV (電気自動車) 普及

【問2】 給油所が暮らしと直結しているのはなぜですか。例を一つあげて答えましょう。

公共交通機関が少なく自家用車が手放せない地方では、給油所が欠かせないから

給油所が冬場に灯油を配達する役割を担っているから

給油所は、災害時のエネルギーを確保する場所にもなるから

～などから一つあげる

【問3】 給油所 (ガソリンスタンド) の廃業が進む要因について、記事中からは読み取れないものを次のア～オから一つ選びましょう。 (ウ)

ア 車の燃費が飛躍的に伸びてガソリンが売れなくなったため

イ 給油所の地下タンクのメンテナンスや改修に費用がかかるため

ウ 地球温暖化が進み、ガソリンの使用を控える人が増えたため

エ 給油所の担い手の高齢化が進んでいるため

オ 価格の安いセルフ式給油所ができ、客足が遠のいたため

【問4】 資源エネルギー庁は、給油所が3カ所以下の自治体を何と定義していますか。記事中から抜き出して答えましょう。

(給油所過疎地)

【調べてみよう】 あなたの住む地域の給油所数の変化について調べてみよう。